

電線ケーブル不足の現状と今後の見通し

2024年1月26日

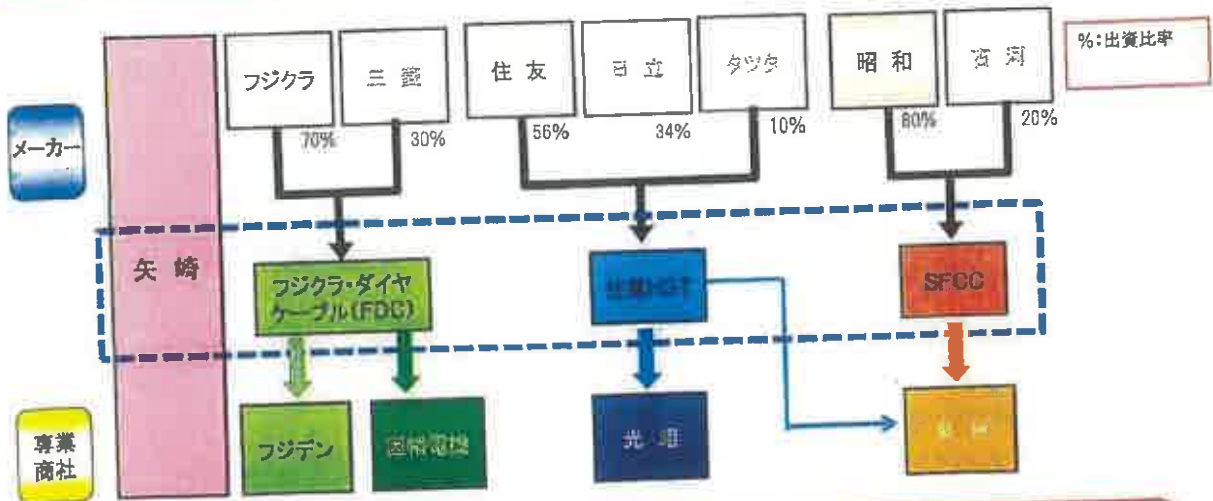
矢崎エナジーシステム株式会社

福岡支店 九州電線営業部

石川 義夫

1

建設用電線 業界の現状



建設用電線 ... 8社・8ブランドが、4社・4ブランドに統合再編

1990年のバブル当時、電線ケーブル出荷量 121万トンで、ピークに達した。バブル崩壊以降は、銅電線出荷量は下降局面に入り、総電線出荷量の半分を占める 建設用電線分野の統合が進んだ。

2023年実績(1-12月) 61万7千トン

2

【各社の受注一時停止品目】

- **高圧ケーブル** …… 6kV-CVT(EE・ETタイプ) エコ製品含む
6kV-耐火ケーブル
- **低圧ケーブル** …… 600V-IV/CVV/CV・CVT エコ製品含む
600V-耐火ケーブル
- **VVFケーブル** 等

メーカー各社：住電HST FDC SFCC 矢崎ES 富士電線(VVF)

2023年11月初旬頃より「一部製品の新規受注・納期回答 一時停止」
段階的にお客様へ文書を展開

3

YAZAKI

電線ケーブル不足の現状(2)

SECRET
秘 密

【電線ケーブル不足の要因】

- ① **ケーブル需要の急激な増加**
 - ・首都圏大型案件、半導体等の大型工場建設など、**ケーブル使用量の多い工事**が重なっている。
 - ・コロナ禍の資材不足や人手不足で止まっていた工事が一気に動き出した事が影響。
 - ・建設現場は、年末・年度末の完成を目指す事が多い事も拍車。
- ② **市場の敏感な反応**
 - ・ケーブルが足りないという不安感から、買い急ぐような動きも見受けられ、実需以上の発注の傾向。
- ③ **高圧ケーブル ホトリ発生事案による影響**

メーカー各社の生産能力を超える需要の増加から
電線・ケーブルの不足の状況となった。

4

今後の見通し(1)

【業界団体・経済産業省のコメント（2023年12月末）】

業界団体の「日本電線工業会」

「メーカーでは材料調達難や工場の停止といった問題はなくフル稼働を継続している。ただ、一定期間、電線ケーブルの一部について新規受注の停止や納期の再調整が生じざるを得ない状況になることを危惧している。本来は需給がひっ迫する状況にはないと認識しており、実際の需要に応じた適切な発注や流通に協力してほしい」

経済産業省の担当者

「メーカーもフル稼働で生産をしているので事業者は冷静に対応してほしい。引き続き、状況を注視していきたい」

5

今後の見通し(2)

【電線・ケーブル供給の見通し】

① **各社 順次受付再開** ※品種・サイズは各社異なる

・住電HSTケーブル 2024年1月15日付け文書

2024年2月1日 受注受付再開

・フジクラ・ダイヤケーブル 2024年1月17日付け文書

2024年2月5日 受付再開、2024年2月20日 以降納入再開

・SFCC 2024年1月23日付け文書

2024年3月1日 受付再開、2024年3月18日 以降納入再開

② 例年5月～8月にかけて低需要期となり生産余力が生じる可能性

各社の状況に差はあるが、増産効果により**受注受付再開**へ一日も早い安定供給の回復に向けてフル稼働・増産を継続

6

【令和6年能登半島地震について】

「日本電線工業会」「全日本電線販売業者連合会」

「令和6年能登半島地震において被災された皆様が1日も早く普段の生活に戻るための震災復興対応を迅速に進めて頂くため、電線ケーブルの手配に関して経済産業省からの要請に基づき、震災対応優先対応の体制を整えました。電線ケーブル不足による需要家様のご不便を解消すべく努力して参りますが、震災復興対応の優先についてご理解を頂きたい」

住電HST、FDC、矢崎ES 他

令和6年能登半島地震で材料仕入先の工場が被災した影響により、材料調達に支障をきたし、ケーブル生産に影響が出る可能性